

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ カイツカイブキ ～

(一社)日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正史

2018年の秋に富山市内のある工場から周囲に植栽されているカイツカイブキが多数枯損したので(写真1)、その原因を知りたいとの相談を受けました。カイツカイブキの枯損木が多発するという被害は初めての経験であったので、早速その状況を調べるとともに聞き取り調査を行いました。さらに、同僚の樹木医の協力を得て病害の可能性についても検討しました。今回はその結果を紹介したいと思います。

1 枯損木が発生した原因の究明

(1) 枯損木の状況とこれまでの管理状況

枯損木の発生は2018年の5月頃からであり、多発したのは7～8月とのことでした。特に工場敷地の東側の並木で多く発生し、それ以外ではきわめて少ないか、ないという状態でした(写真1、2、3)。枯損木が多く発生した区域の並木は昨年まで花壇として利用されていたとのことなので灌水をしていたが、今年は花壇としては利用していないので灌水はしていないとのことでした。この区域は裸地化しており、雑草等はほとんど見られませんでした(写真1)。この区域のカイツカイブキは丸い玉のような景観を維持するため、2年前に強い剪定が行われたとのことでした(写真1)。

枯損木がきわめて少ない区域ではマルチ処理されており(写真2)、枯損木がない区域では草花が繁茂した状態でした(写真3)。

(2) 病虫害の発生状況

樹全体が枯死しているので、根元付近にカミキリの被害が想定されましたが、成虫が脱出した孔や幼虫の食害による樹脂の流出等はまったく見られませんでした。また、樹木が衰弱した際に寄生

して枯死させる傾向の強い病原菌もあるので、同僚の樹木医に鑑定を依頼したところ、そのような病原菌としてペスタロッチア病菌、芽枯病菌、サーコスポーラ属菌等が検出されたとの報告を頂きました。

(3) 枯損木が発生した原因

衰退の始まりは、枯損木が多発する2年前に実施された強い剪定により樹勢が衰弱したのではないかと考えられます。この強剪定による樹勢の衰退が十分回復していない2年後の2018年の夏に高温と降水量の少ない日が続き、その期間にまったく灌水をしなかったこともあり、水不足は深刻な状況となり、乾燥に強いと言われているカイツカイブキでも樹勢の衰退がさらに進行したものと考えられます。この過程でペスタロッチア病菌等の寄生によって枯死に至ったものと考えられます。

2 維持管理

カイツカイブキはイブキの園芸品種です。日当たりを好む陽樹で成長が早く、潮風、大気汚染、乾燥に強い樹種で、土壌は特に選ばず、砂質土でも育つ優れたものです。しかし、今回の事例からもわかるように、このような特性を持っていても枯死に至る場合があります、特に植物に灌水することの大切さがよくわかりました。

また、枯損木が少なかった区域やまったくなかった区域では裸地化しない管理がなされており、この管理は水不足を軽減する効果があることもよくわかりました。

余談ですが、カイツカイブキはナシ赤星病の中間宿主です。富山市呉羽地区のようなナシの生産地域では植栽しないようにしましょう。



写真1 枯損木が多く発生した東側の区域 (裸地化している)



写真2 枯損木がきわめて少ない区域 (マルチされている)



写真3 枯損木がない区域 (花壇管理されている)